



埼玉ワイズメンズクラブ

Saitama Y's Men's Club

月間テーマ：Extension Membership Conservation



2021-22年度 会長テーマ「地域と繋がろう・地域に知れよう」

関東東部部長 大澤和子(所沢)「私の地域から世界に広げよう青少年を支えるワイズの輪・和・ワッ！」

東日本区理事 大久保知宏(宇都宮)「私たちは次の世代のために何ができるか？」

アジア地域会長 Ohno Ben(大野勉・神戸ポート)“Make a difference beyond the 100th”「100年を越えて変革しよう」

国際会長 キム・サンチェ(韓国)“Y's Men with the World”「世界とともにワイズメン」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 上松寛茂 / 書記 水無瀬隆三 / 会計 小林道明
直前会長 上松寛茂 / ブリテン 水無瀬隆三・浅羽俊一郎 / 担当主事 太田 聡

今月の主な内容

◆会長挨拶 ◆8月例会メモ ◆さいたまの市民活動を訪ねる ◆メンズエッセイズ ◆メンバーからのお便り ◆クラブ統計 ◆ワイズダム拾い読み ◆YMCA 便り・小窓から



会長挨拶

浅羽俊一郎



この夏はコロナ5波・東京五輪・菅首相と地上では人々が孤独な悲しみと喧しい興奮を経験し、そんなこととは無関係に天空からはゲリラ豪雨が西日本から日本列島全体を襲い、各地に爪痕を残しました。76年目の

広島・長崎原爆の日と終戦記念日は地味でした。夏の高校野球もやりました。今の子ども達にとっては夏はどんな季節なのでしょう。私の小学生時代を思い出すと、夏休みといえばランニング姿で友達と外で走り回ったり、プールで遊んだりしたものです。毎朝のラジオ体操とカードにスタンプを押してもらうのも楽しみでした。この私でも日焼けして真っ黒でした。暑すぎると思ったことはありませんでした。またYMCA職員の頃は毎夏キャンプ数本に子供たちを引率しました。緑に囲まれた涼しい環境で子ども達がのびのびと遊ぶのを見るのが実に楽しかった。

今夏私は7月下旬から3週間夏風邪で自宅療養しましたが、それ以外の毎土曜日は見沼の田んぼで野良仕事。稲が育つのを見ながら雑草を刈りし、立働きのきつい時は鎌研ぎの仕事をさせてもらいました。何よりも田んぼと里山に居場所があることに改めて感謝するとともに、私にとって全く新しい地点から地上と天空が見られる喜びに浸りました。皆さんの夏はどうでしたか。❖

今月の聖句

私はあなたの神、主である。わたしはあなたに益なることを教え、あなたの歩むべき道にあなたを導く。
(イザヤ書 48:17)

私の心に触れた言葉

小林道明

「…人間の年齢とは、人間らしく生きた時間の合計である…」日航ジャンボ機の事故があった群馬県上野村黒沢村長(当時)

昨秋上野村へドライブ、目的は山の紅葉見物と航空機事故があった御巢鷹山尾根の墜落現場に行き、手を合わせる事でした。駐車場よりの登山道は予想外に険しく、歩行ままならぬ私は少し登った所で断念、帰路上野ダム見学後、事故現場に一番近い村営「しおじの湯」に宿泊した。ロビーホールには事故当時の状況、遺族の言葉など写真と共に多くの展示があり、改めて事故の恐ろしさが蘇りました。そのコーナーの一角に村長の言葉があり、生きる意味について自分を見直すきっかけになっております。

9月例会案内

日時：9月27日(月) 午後2時～4時

会場：「き咲きてらす」(浦和区木崎3-6-6)

ワイズモットー・ソング

今月の聖句・一言

ゲスト紹介・誕生日/祝い事

* 大澤和子関東東部部長の公式訪問・部長挨拶

卓話：太田聡氏(浦和YMCA館長)

「私にとってのYMCA」

YMCAタイム・交流のひと時・閉会

* 閉会后懇親会予定しています。

◆ 8月特別納涼例会メモ

8月の例会を浅羽の個人的な理由で第4月曜日ではなく、1週間ずらして第5週に延期させてもらいました。この場を借りてお詫びいたします。この例会は「き咲きてらす」を会場に納涼特別例会として交流のひとつを楽しみました。ゲスト・ビジターは大澤部長、妹さんの小林恵子さん、衣笠詩子さん。メンバーは上松、小林、衣笠、浅羽。合計7人と少人数でしたがコロナ禍中で3密回避するにはちょうど良かったです。開会の「いざ立て」では歌う代わりに1番の歌詞をバラして混ぜたカードが参加者に数枚ずつ配られ、ハミングに合わせて各自自分の持っているカードから正しいのを探し出して遅れないように提示する、というゲームをやってみました。ほぼ皆歌詞を覚えていました。



乾杯後は話題を自由に、ゲストの方々も話に加わってくれました。歌も歌おうということになり、歌詞スライドで衣笠メンのリードに小林メンのハーモニカと浅羽メンのピアノ伴奏で数曲歌いました。(スライドにない歌はその場で大澤部長が模造紙に書き出して、皆で歌うという何とも気楽な例会でした。大澤部長の部長通信(8月号)に掲載あり。(浅羽 記)

◆ さいたま市の市民活動を知ろう(2)

「水のフォーラム-市民田んぼ」

浅羽俊一郎

NPO「水のフォーラム」の代表藤原悌子氏は埼玉県や国の水行政、広くは流域から人々の生活を見る視点で市民活動をしている。浦和駅前の市民活動センターで開催する「水と緑のアカデミー」で一流講師陣の講義と並行して「市民田んぼ」活動があり、私は昨春から田んぼに出ている。

現行の水行政が流域の総合管理になっていないという問題意識を、稲作という具体的な活動の中で市民に共有してもらいたいという思いがさいたま市から田んぼ1区画を借りることで、2008年に正式な市民田んぼとしてスタート。無農薬・無肥料の伝統農法で進めることにした。とは言え何世代も農業を生業としてきた農家にとってはよそ者。NPO有志が無償で鬱蒼とたる里山を切り拓いたり、用水路を浚ううちに、当初

距離を置いていた農家もまず婦人たちが声をかけてくれて、そこから徐々に今の信頼関係が育っていったと言える。

市民活動が続く中で多少人の入れ替わりはある。今常連は約30人。サラリーマン、会社経営者、役人、主婦、年金生活など。ワイズメンは2人。運営費や修繕費は参加者の年間活動費でやりくりし、収穫した玄



米は働いた参加者に分配される。

典型的な1日。活動内容はメールで事前に知らされる。土曜日の朝、用具を揃えて田んぼに降り、田んぼ別のリーダー

の指示に従って作業を黙々と進める。昼近くには声かけあって里山に移り、木陰でお茶やおにぎり、自慢の漬物な



どをつつきながら議論し冗談を交わす。そして藤原氏のその日の振り返りや今後の予定の説明が始まると全員集中。自然のサイクルも天候異変もこちらの都合には無頓着。先を読める人の体験談や指示は実に大切なのだ。

私は今田んぼ2年目。水や土や稲を相手にしている不安と謙虚な気持ちと同時に、自分がこの歳にして新たな一面が作られていることに驚いている。かつてのシティ・ボーイは複雑な進化を遂げている。❖



写真手前が藤原悌子代表

～メンズ・ショートエッセイズ～

「なんと無くスッキリしない夏」

水無瀬隆造

今年は、一年延期、2021年オリンピック・パラリンピックが開催されました。人生で2回のオリンピックを観戦するのは幸いな事だろうと思う今日この頃です。



小生、S39年（1964年）の東京オリンピック・パラリンピックに奉仕者を経験し、その活気に満ちた開催を思い出します。代々木の地に、丹下健三氏設計の素晴らしい体育施設が次々建築され、日本のこれからに明るい未来を感じました。又国民も

一致して応援しました。しかし2021年（令和3年）のオリンピック・パラリンピックの開催に付いては「コロナ禍」の大変な状況下での開催であります。コロナ禍で医療体制崩壊の中で、私達の「安心、安全」をどうするのか、明確な方針も出ず、又オリンピックの開催主体が誰なのかが分からない状況を呈した。その状況下で多くのアスリートが懸命に頑張っている姿に、何か応援してもスッキリしない感がします。又JOC成る団体が巨額の資金を動かし、その利益に群がる人々が、特権階級人の様にふるまう姿があった。日本の国民として国難とも言うべきコロナ禍に十分な資金も出さず、オリンピックに多額の税金を無駄に使われた。

ただパラリンピックは、1960年に第1回をイギリスのグッドマン博士により病院のリハビリ運動として取り入れ提唱された。第2回は、日本の中村裕医師がその開催誘致に尽力された。1964年第2回として東京オリンピック・パラリンピック大会に世界21ヶ国の参加、9競技144種目で開催され、日本は53名の参加でひっそりと始まった。その後の発展は誠に喜ばしいことです。S39年の第2回パラリンピックにボランティアとして参加し、グッドマン博士より直接話が聞けるという幸いな経験をしました。障害を持った人々がその可能性に挑む努力の姿には頭が下がりました。

しかし現況はワクチン接種もチグハグ、又治療体制も自宅治療と称して、4万人の人々が自宅に放置され、まさに医療崩壊が起こっています。こんな中で懸命に日本で競うアスリートに対しての応援に余りが入らず、誠に申し訳なく思います。ただただご無事を祈る日々であります。

前回の東京オリンピック・パラリンピックと、今回の開催とでは余りにも違う状況が多すぎます。又今回のオリンピック・パラリンピックの開催までのドタバ

タ劇を見るにつけ、今後の日本が心配される「なんと無くスッキリしない夏」の日々を過ごして居ます。❖

「リーダー時代の思い出」

衣笠輝夫

YMCA リーダー時代の思い出は、星の数ほどありますが、今回は野尻湖キャンプと山中湖キャンプを思い出しました。

東京 YMCA 野尻キャンプ



美しい YMCA 野尻キャンプ場の湖面プールサイドで女子大生へのボート指導とキャンプソング指導。湖畔で歌う「美しい湖水よ」も気持ちがいいです。



野尻キャンプ場の旧メインホールでキャンプソングとゲーム指導。

東京 YMCA 山中キャンプ場



山中キャンプこの頃は赤い屋根の旧メインホールと大きなマンツルピースがありました。❖

我が恩師、関田寛雄青山学院大学名誉教授

上松 寛茂



我が半生75年間を通じて一人の人から100通を大幅に超えるはがきや手紙類などの私信を受け取ったのはただ一人しかいない。それもペン書きの肉筆で細かな丁寧な字が常にぎっしり詰まっている。こちらかはその半分も出していない。大学時代の

恩師関田寛雄青山学院大学名誉教授がその人だ。8月で93歳。日本基督教団神奈川教区巡回教師として現役だ。週3回の透析を受けている。最近では8月7日の横浜市保土ヶ谷区にある英連邦戦死者墓地で開催された追悼礼拝でお目にかかった。英連邦各国大使館の武官らが列席、毎年関田先生が説教、献花されている。九十九里浜に近い千葉県大網白里市に居住、主に教え子らが牧する全国の教会から招かれ、何より好きな映画「男はつらいよ」のフーテンの寅さんよろしく全国を飛び回っている。痩せて骨と皮ばかりの先生だが、そのまなざしは温かい。

小生は最初の東京オリンピックが開催された1964年に青山学院大学文学部二部教育学科に入学した。小学校の教員志望だった。在学中、一部不合格組の葛藤が続き、卒業後1年間の聴講生を経て昼間の文学部日本文学科に学士編入。大学に計7年間在籍した。“下を向きながら”の学生生活に励ましと明るい希望を与えてくれたのが1年生必須科目の関田先生のキリスト教概論の授業だった。その前年に米国留学から帰国、神学科の助教授としてスタートしたばかりだった。在学中に学園紛争が吹き荒れ、バリケード封鎖、機動隊導入、大学側のロックアウトで授業は長期間休校、現在のコロナ禍のような状況だった。学生の声に真摯に耳を傾けたという理由で小生が卒業して間もなく神学科は廃止。大半の教授陣は全国の大学に散り、関田先生だけが残った。“万年助教授”。定年直前に教授に昇格。不遇を囲った。関田先生のもとから巣立った学生の多くは花ひらいて日本の伝道を支えている。ホームレスの救世主とも呼ばれる奥田知志牧師は、関田先生が教えていた西南学院の学生だったが、ドイツ留学が決まり、飛行機の搭乗券を手に入れ、先生に別れのあいさつに行ったら「君に吹いている風に吹かれたらどうか」という一言でドイツ留学をドタキャン。日本のホームレスの救済活動で活躍。NHKテレビのプロフェッショナルでも紹介された。

大学で教鞭をとりながら恩師の浅野順一教授の勧めで川崎市の桜本教会、戸手教会を創設、開拓伝道。河川敷の粗末な教会で在日韓国朝鮮人の民族差別問題にも取り組む。

著書は数えきれないほど。100冊以上は購入した。この7月には「目はかすまず 気力は失せず」～講演・論考・説教～（新教出版社）を出版。

先生の教え子の中では文字通り不肖の弟子だが、結婚式や弟の葬儀の司式、妻との不正常な関係の状態のときの3人の話し合いなど折に触れ、お世話になった。小生だけが多くの手紙類を超多忙の関田先生から独占的にいただいているはずがない。その数十倍、別の方々にも送っているに違いない。日本伝道の衰退が指摘されている。日本の牧師はどうしている。

関田先生の牧師への道筋は、若き日の横浜YMCA職員としての出発が原点になっているが、このことについては次の機会に載せたいと思う。（続く）◆



今春、川崎戸手教会で開催された関田寛雄牧師を囲む読書会。川越クラブの吉野メネット、世田谷クラブの松井メンも参加。上松メンは最後列中央。（写真提供 上松メン）

YMCA スペース

◆ YMCA 便り

- ・9月1日第226回 早天祈祷会
- ・9月18日 熊本YMCA 総主事就任式
- ・11月3日～23日第22回埼玉YMCA チャリティーラン
- ・12月11日 クリスマス礼拝・祝会（予定）

◆ YMCA の小窓から

「タテとヨコと算数」

この1年半で急速にオンライン化が進みました。前述のイベントもオンラインで実施されます。本日、熊本YMCAの総主事就任式をオンラインで視聴しました。光永新総主事は、私が参加した2009年ステップII研修の研究所所長として大変お世話になった方です。

就任式では、出口治明さんの著書に触れ、「YMCAの歴史（タテ軸）、世界・地域と繋がるYMCAの世界観（ヨコ軸）、その十字が交わるところに算数（経営）を持ち進んでいきたい」と力強く話されました。

9月の早天祈祷会では、仲矢宏基さんにご奨励いただき大宮市民クリスマスの運営に苦慮する中で

YMCA が与えられた話をお聞きしました。先行きの見えない時代にあって、もう一度 YMCA の歴史、使命、そしてワイズメンズクラブとの協働を確認し、共に歩んでいきたいと実感しました。 (太田 聡) ❖



メンバーたちの近況

三浦メン

この度趣味のために、古物商の免許を貰いました。趣味電古物市場などで、好きなものをあやよくば安く知れたらと思いましたが取得しました。のんびり自分でやったので、数か月かかりました。時間ができたら市場に行ってみようとおもいます。

衣笠メン

今月 18 日～20 日と神戸 YMCA の余島キャンプ場で開催された YYY キャンプに参加し、多くのワイズメンと交流してきました。改めて報告したいと思います。

浅羽メン

今月から「き咲きてらす」正式にスタートしました。ワイズ 100 周年記念キャンペーンの一つが「ソングフェスト」。それに関わるうちに東南アジアに知り合いが出来ました。マレーシアのジョホール・クラブのデズモンド氏もその一人。添付ポスターは彼の作品。世界各地で堅実に活動する同士と知り合う。これもワイズの魅力です。

最近気になった NEWS

- ✓ 東京パラリンピック 9 月 5 日閉幕。そしてこれからオリ・パラの収支決算が出る。
- ✓ 11 日、9.11 の米国同時多発テロ 20 年。
- ✓ 緊急事態宣言、9 月 30 日まで延長。19 都道府県に適用。
- ✓ 自民党総裁選開始。河野・岸田・高市・野田が候補。
- ✓ OECD 加盟 38 カ国中、理系女子比率最下位。
- ✓ 北朝鮮、日本海に短距離弾道ミサイル 2 発。
- ✓ 世界のコロナ感染者 2 億 3 千万人へ。

Men's FOTO Gallery



コロナ禍前の埼玉ワイズ歌声集会。現在休活中。皆どうしているのか。(2018 年 2 月ブリテンより転載)

今後の主な行事日程

10 月 2 日 関東東部部大会

10 月 24 日 ワイズナイトフォーラム (ZOOM)

11 月 20 日 第 2 回関東東部評議会 (提出したい議案は早めにご用意ください。)

8 月例会報告	会員在籍数	7 人
例会出席数		7 人
ゲスト・ビジター		3 人
会員出席率		57%
ニコニコ		円

編集後記 見沼田んぼに四季を学び、写真に収めています。9 月中旬に里山のすそを流れる用水路沿いを草刈ったあと、彼岸花が「待ってました」と咲いてくれました。(本号表紙写真) さて改定ブリテン 2 号です。慣れない編集子はとても苦勞しています。困るのが原稿をページの途中に挿入するとその先にあった写真が消えてしまうこと。でも出来上がるとホッとするし、原稿の相談でメンバーや YMCA 職員と話せるのが嬉しいです。「今時の若者気質」は休みます。(SA)